

小さい者の一人が減びることは天にいますあなたがたの父のみ心ではない。



社会福祉法人  
小羊学園

〒433-8105  
静岡県浜松市北区三方原町 2709-12  
電話：053-414-1833 FAX：053-438-7707  
E-mail kohitsuji@imix.or.jp  
H.P http://www.kohitsuji.or.jp/

発行人：稲松 義人  
印刷所：聖隷サービス(有)  
定 価：一部 30円

2010年4月20日  
第 324 号

「創立の精神」を

どう継承するか

理事長 稲松 義人

4月1日。小羊学園でも毎年この日に辞令交付式をします。新年度社会福祉法人小羊学園の職員として各施設に着任する人たちに対して採用辞令を伝達するセレモニーです。ここ数年は、採用される職員の数が一番多いつばさ静岡の多目的室を会場に行われていきます。式はキリスト教の礼拝形式で進められます。みんなで讃美歌を歌い、司会者が聖書から「迷える一匹の羊」の箇所（マタイによる福音書18章12節から14節）を読み、そして私は理事長として一人ひとりに辞令をお渡しした後、「小羊学園・創立の心」という短い話をします。

多くのキリスト教主義の法人がそうであるように、社会福祉法人小羊学園の定款にも「キリスト教の精神に立つて」と記されています。しかし、これもまた、日本の場合多くの法人がそうであるように、実際に社会福祉の実践を担う職員のほとんどはクリスチャンではありません。聖書に触れるのも初めてというひとことも大勢います。そんな中で、創立の精神を職員全体に分かりやすく説明することは難しく、キリスト教主義の法人として創立の精神を継承していくことについては、社会福祉

法人だけではなく、学校法人や医療法人においても同様に苦勞しておられるところが多いようです。

創立者は、自分自身が言葉で示した考え方を即ち「創立の精神」とすることもできます。しかし、それを継承する者は、創立者から受け継いだものを言葉にして説明する必要があります。小羊学園の創立者山浦先生は、継承すべき創立の精神を明確に示すフレーズを残しませんでした。初期の小羊学園には、理想とする子ども像として「明るくたくましく」という言葉がありました。また、山浦氏が「小羊学園は平和運動です。」と語ったことも伝えられています。三方原スクエアの定礎板に記した「この子らは光榮を異にす」は、山浦氏の最初の著書のタイトルです。

私は15年前に理事長を引き受けることになったとき、結局、自分自身で何か特別なフレーズを「創立の精神」として示すのでなく、小羊学園の名前の出典となった聖書の箇所を掲げ、次のような文章を示しました。

「小羊学園は、山浦俊治・明子夫妻の祈り（キリスト教への信仰）のうちに発想され、その思想、姿勢、働きに共感する同業者や多くの支援者に支えられ、約2年の準備期間を経たのち、1966年5月に開園しました。そのことが、社会福祉法人小羊学園の定款第一条において『キリスト教の精神に立って』と言い表されているところで

す。『キリスト教の精神』は、正しく聖書を理解し、信仰によって与えられるものであり、すべての人が確かなものとして理解することは容易ではないかも知れません。しかし、それは誰でも聖書の中から学ぶことができるものであり、時代を経た今も決して古いものではありません。私たちは、「小羊学園」の名称の出典であり、これまで繰り返し読まれてきたこの聖書の言葉の問いかけを心に留め、これからも共に歩んでいきたいと願っています。」

そして、このあとに私自身が示された問いを三つ掲げました。

(1) 「自分を低くして生きる人たち」一人ひとりを大切に考え、彼らの生活（人生）が豊かになることを第一義に発想しているだろうか。

(2) 「自分を低くして生きる人たち」と分かち合うこと（彼らと生活すること、あるいは彼らのために働くこと）に喜びを感じているだろうか。

(3) 自分自身の安心のために、目の前にある課題に関わることを躊躇していないだろうか。

クリスチャンであろうがなかろうか、聖書から示される問いを自分自身への問いかけとして思い巡らし、自分たちの実践を省みることはできると思えます。そして、その問いに向き合いつつ実践を受け継いでくれる職員がいるときに、「創立の精神」は継承されているのではないかと思うのです。

### 支援センター

## わかぎ

棟の暮らし

支援センターわかぎは、昭和53年に開設し、今年で32年になります。開設当初から、小舎制（ユニットケア）を導入し、4つの棟に分かれた生活をしています。昼間は、班に分かれて活動していますが、朝・夕はそれぞれの棟で過ごしています。

今回は、それぞれカラーの違う棟がどんな生活をしているのをご紹介します。

### 豊かな個性が そろっています

ポプラ棟主任 内山 晴康

ポプラ棟では男性利用者13人が生活を共にしています。わかぎ4棟の中では一番の大所帯です。加えてショートステイの方々の受け入れもしているのが週末の午後ともなれば14〜17人がポプラ棟で過ごしていることになりました。人数が多いせいも、皆さんそれぞれ気ままに棟外で過ごしていることが多く、担当になった職員は支援の必要がある度に利用者を捜して決して狭くはないわかぎの敷地内を右往左往しなければならなくなります。でも一人ひとりの

姿を追いながら感じるのにはそれぞれの豊かな個性・集団の中に埋没すまいとするバイタリティです。

もしあなたがわかぎを訪れたら最初に顔を合わせるのはフェンスから駐車場を眺めてお客さんをお迎えしてくれるタケユキさん、事務所に入ればヨシアキさんやノブユキさんが窓越しに挨拶してくるでしょう。時間が平日の作業時間なら庭掃除で草刈り機を器用に扱うイサオさんが目に入ります。廊下を歩いていくとのんびり日向ぼっこしているシゲユキさん、ハルクニさん、ヒロユキさんに出会います。カズヒコさんは隣のマロニエ棟でまどろんでいます。棟内ではケンジさんがTVにあわせて体操し、ミチヤさんがCDに聞き入っています。キサクさんに出会えば今日1日の出来事を詳しく報告してくれます。時間があればオリーブの樹



にも立ち寄りてみて下さい。木工作業に取り組みリンゾウさん、コウジさんの姿を見るのが出来ます。夕食後のんびり風呂に入り1日の疲れを取

り、消灯前のティータイムがポプラ棟一同勢揃いの時間です。時間になると自然に集まり一緒にお茶を楽しむ皆さんを見ると一見まとまりのない様なポプラ棟の利用者もやはりどこかに生活を共にする仲間意識があるのだろうか、と感じさせられます。

### 火曜日の

## アカシアの夜

アカシア棟主任 鈴木 圭子

「おかえりなさい」出勤するとヒサコさんがこう言ってお出迎えてくれます。他棟での勤務が続ぎ、久しぶりにアカシアでの勤務の時には「あれ、遅かったね〜どこ行ってたの?」と心配してくれます。この言葉を聞く度に、「これは利用者にとっては家なんだなあ」と感じていきます。

そんなアカシアでは、現在10名の利用者と1名のロングショートステイの方が生活しています。また、週末などには日中一時の方やショートステイの方もいることが多く、毎日にぎやかなアカシアです。最年少でも47才とずば抜けて高齢化がすすんでいる棟ですが、気持ちは若く、「自称22歳」やら「自称18歳」の人ばかりです。そんなアカシアの皆さんの大好きなテレビは、年齢にふさわしく? 「水戸黄門」と「歌謡コンサート」です。特に「歌謡コン



サート」はいつものんびり屋のユミさんもこの日ばかりは、スムーズに行動し、入浴を終えるとテレビの前でスタンバイしています。

わかぎでは、入浴後に各棟で洗濯をし、曜日ごとに設定された洗濯当番の方が干しているのですが、歌謡コンサートが始まるとテレビに夢中で手が止まってしまう人が多いのでアカシアでは火曜日の洗濯当番は歌にあまり興味がない人にしようとか会議で決めたほどです。

8:00からの歌謡コンサートが始まると、皆さん居間や自室のテレビに釘付けです。いつもはSBSの番組しか見ないというこだわりがあるユミさんですが、歌謡コンサートだけは別のようでしたっけ見えています。アカシアは歌好きの人が多く時には、皆で大合唱することも。そして8:45のエンディングでは一緒に手を振り、「NHK終わり!」とまたSBSにチャンネルを戻し、またいつもの生活が始まります。火曜日の夜、ぜひアカシアに遊びに来て下さい。「おかえりなさい」と迎えてくれますよ。

## 笑顔と音楽の

### 絶えない棟

マロニエ棟主任 川合佐結美



マロニエ棟は38歳〜67歳の12名の男性利用者が生活しています。そのうちの2名はコスモス棟に個室を持っています。気が向いた時に自室で大音量で音楽を聴いたり好きな人を部屋に呼んでDVDを観て遊んだりする方や寝るときだけ自室に戻る方とそれぞれですが、基本的には2人も皆でいる事が好きな様で居間でお喋りをしたりテレビを観て過ごしています。

朝の自由時間にはトイレやテラスの掃除など役割分担されている仕事に声を掛けると張り切ってやってくれます。音楽の好きな人が多く、夕方の自由時間や土日にはずっと昭和の歌謡曲や演歌が流れています。

火曜日の夜はテレビの前に集まって



マロニエ棟のソファにて

NHK歌謡コンサートを観賞します。皆さん自分のお気に入りの歌手が登場すると盛り上がり、一緒になって歌っています。またドリフやバカ殿などのお笑い番組がある日や時代劇の日も大変盛り上がりです。

ここで少し利用者の紹介をします。ムードメーカーのハセさんはギャグやお芝居を真似しては「コレだ〜れだ?」と有名人の名前を当てさせたり他の利用者をお笑わせたりして喜んでいます。ヒサオさんは勤務表をよく覚えていて翌日の各棟の勤務者などを尋ねると正確に答えてくれるので皆さんから頼りにされています。サクライさんとアサイさんの間で密かなブームになっているのが紙破りです。祝儀袋に始まり紙袋やダンボールなどを細かくちぎって遊んでいます。サクライさんはジグソーパズルが得意で1000ピースのパズルを数日で完成させてしまいます。完成するとまたバラバラにして今度は裏がえしてまた組み上げてしまいます。ハマダさんは音楽が大好きでジャンルを問わず演歌からテレビCMまで何でも覚えていて曲に合わせて唄っています。トシユキさんは演歌が得意で好きな曲が流れるとこぶしをきかせて上手に唄います。夏祭りや居酒屋わかぎなどで張り切って唄っている姿はとても格好いいです。このような方々と音楽を聴きながら賑やかに過ごしています。

## 癒しの空間

### エリカ棟

エリカ棟主任 渥美 雅世



エリカ棟では女性9名の利用者が生活しています。利用者の皆さんの様子は、居間でテレビを観たり、音楽を聴いたり、時にはミエコさんが得意なピアノを弾いてくれ、それに合わせてトモコさんが踊っていたり、ヤスエさんはいたずらに励み、クニヨさんとミエコさんは自室で好きな事をして過ごしていました。

そんなエリカ棟に今年に入り、大きな出来事がありました。好奇心旺盛で職員の想像を上回るものに興味を示し、じわじわと解体に励むヤスエさん。今まで壁紙や床、渡り廊下のマット等、エリカ棟はヤスエさんの爪跡が至る所に残っています。そんなヤスエさんが1月中旬に脳梗塞を発症し入院されたのです。そしてエリカ棟から職員の大きな声は聞こえなくなりました。

10日後、右半身不完全麻痺の後遺症を抱え車椅子にて退院されたのですが、大好きだった食事もほとんど食べられなくなり、それが辛いのか涙を流して泣く姿に職員も今後を悲観したものです。しかし、職員とは裏腹にエリカ棟の利用者の皆さんは退院に大喜び、あれこれとお世話をしたり、毎朝ヤスエさんのところまできて「おはよう、



あっ笑ったよ!」と声をかけ、気にかけてくれるミキコさんやクニヨさん。いつもは居間で下を向いて座り、興味のある事にだけ顔を上げるキョウコさんもヤスエさんが居間で横たわっていると近寄り一緒に横たわり声を出して笑ったりと、暖かく微笑ましい空気が流れるようになりました。

そんな空気のおかげでヤスエさんは本来持つ人並み以上の好奇心により驚異的な回復を見せ、座位も保てなかった退院時、今では歩行も可能となり、もちろん食欲は旺盛、壁紙にも手が…。その回復ぶりに職員だけでなく利用者の皆さんも「見て!足動いたよ!」「ご飯食べたよ」と嬉しそうに報告してくれれます。以前は時折見られた口論もすっかり聞かれなくなり、職員共々口調も穏やかになり、笑顔の絶えない優しさに包まれたエリカ棟となりました。エリカ棟という癒し空間に是非いらして下さい。



— 小羊写真集 ⑧ —

小羊学園でも季節ごとに年中行事を計画し、子どもたちと一緒に楽しみました。

「ひなまつり」では、女の子は着物を羽織り、お雛さまを飾り、お祝いをしてきました。雛人形は、地域の皆様のご寄付くださいました。傷みが激しくなってきた頃に、新しい雛人形を頂くこともあり、現在の「おひなさま」は、果たして何代目になるのでしょうか？

ご寄付頂いたみなさまに、感謝です！



社会福祉法人小羊学園 幹部人事異動のお知らせ

4月1日付けで左記の幹部職員人事を行いましたのでご報告します。

- 舟橋 暢 (支援センターわかぎ統括主任) ↓小羊デイケアホーム施設長
- 出水 巖生 (小羊デイケアホーム施設長) ↓三方原スクエア支援部長
- 鈴木 良成 (三方原スクエア支援課長) ↓つばさ静岡看護課長

社会福祉法人小羊学園 2009年度 苦情受付のご報告

法人では各事業所に苦情受付担当者、解決責任者を設置し、サービス利用や施設運営に関わる苦情や要望・相談を受け、必要な措置を講じてきました。

2009年度に皆さまから頂きました苦情・要望件数を報告します。

施設等に関する苦情	6件	利用者支援等に関する苦情	4件
施設等に関する要望	7件	利用者支援等に関する要望	5件

○皆さまから頂きました苦情・要望について、真摯に対応させて頂きましたが、至らぬ点もあったかと思えます。改めてサービス改善に努めていきます。

小羊学園 創立44周年感謝祭 & 小羊学園を支える会総会 ご案内

○ 小羊学園 創立44周年感謝祭

- 日時 4月29日(木・祝) 午前10時45分～午後3時
- ところ 三方原スクエア(浜松市北区三方原町2709-12)
- 内容 記念礼拝・祝会(模擬店・バザー・ミニコンサート・アトラクション)

○ 小羊学園を支える会総会

- 日時 4月29日(木・祝) 午後3時～午後4時
- ところ 三方原スクエア会議室
- 内容 小羊学園の現状報告

※小羊学園をご支援くださっている方はどなたでも参加できます。



編集後記

通勤に利用するテクノバイパスの桜並木が満開になり、春を感じることでできる季節となりました。

この時期は職員や利用者の別れ・出会いがあり、気持ちが悪く落ち着かない時期です。私は1年前にマルカートを離れ、支援センターわかぎに異動し、この1年間は初めての経験続きでした。人が変わり、時代が変わり、福祉サービスが変わっても、理事長が巻頭で書かれたように、「創立の精神」を忘れることのないよう努めなければと思うのです。

暖かくなったとはいえ、朝夕冷えます。どうぞお身体を大切に。(F)

小羊学園を支える会

2009年度寄付金報告

3月受付分	942,330円(28件)
累計	9,913,886円(584件)

小羊学園への寄付金振込み先

- (口座名義)「小羊学園を支える会」
- 郵便振替口座 00890-4-45415
- りそな銀行浜松支店 (普通) 040005
- 静岡銀行細江支店 (普通) 043483

ご希望があれば、郵便振替用紙をお送りします。下記へご連絡ください。

小羊学園を支える会事務局(鈴木)  
三方原スクエア内 ☎053-414-1833